
関連施設

田上診療所
訪問看護ステーション野の花・訪問リハビリ
わらび苑
院内保育所



関連施設

田上診療所

医事課 大久保 沙織

院長/竹野孝一郎

事務長/古元康德

看護師長/政田育子

看護師/光都志子、秋田由紀代、大川鮎美、宮脇みき子、峯下代美子、中崎真美

医事課/秋田幸子、大久保沙織、児島佑奈

リハビリ室/森谷五月、長田真里子、上窪典恵

田上診療所の1週間の診療予定

	午前		午後	
月	内科		内科	小児科
火	内科		皮膚科	
水	内科		循環器科	
木	内科	皮膚科	皮膚科	
金	内科		小児科	
土	内科	整形外科	整形外科	

※ 整形外科は月2回です。

田上診療所は、院長の竹野先生を中心に15名の職員が勤務しており、診療科は内科、循環器科、皮膚科、小児科、整形外科があります。スタッフも長年勤務されている方が多く、みんなの信頼関係もできており、とても働きやすい環境です。

また、患者様も顔なじみの方が多く、来院された時は、楽しく話しながら診療を行っており、患者様とのこの近い距離感も診療所の魅力の一つではないかと思えます。診療所でできることには限りがあるため、種子島医療センターや地域の医療機関とも連携をとりながら、よりよい医療を患者様に提供できるようにしたいと思えます。そして、今まで以上に地域の皆様に愛される診療所になれるよう、スタッフ一同協力して頑張っていきたいと思えます。

関連施設

訪問看護ステーション 野の花

管理者 榎本 親子

管理者/榎本親子

訪問看護師/西川秋代、鳥巢良子

理学療法士/笹川伸一、上妻直人、水上龍之介

作業療法士/濱添信人、當房紀人、

言語聴覚士/壽山博哉

●令和元年度年間目標

- ・安全な看護・リハビリテーションのサービス提供・専門的知識、技術の習得、接遇の向上
- ・医療事故を起こさない。医療事故は起きなかった。
- ・数値化できるリハビリテーション評価の導入と定期的評価の実施導入開始している。評価・修正し次年度も継続して取り組む。
- ・丁寧な説明と計画的な看護、リハビリテーションの実践説明し同意頂いたうえで実施できている。定期的な計画の評価について取り組みが必要。
- ・研修会、勉強会への参加院外の訪問看護に関する研修への参加を検討していく。
- ・利用者、ご家族からの苦情0を目指す。ご意見をいただく事例があった。接遇満足度調査の評価を活かし検討していく。達成率 70%
- ・活気ある職場作り
- ・各部門でのカンファレンスの実施
各部門ではカンファレンスを実施することができた。看護部・リハビリ間で情報共有が必要な方のカンファレンスについて検討が必要。
- ・適正な業務体制の構築
待機による負担について改善が必要。達成率 70%

- ・訪問利用者・数訪問件数の増加、広報活動の実施、コスト意識を持つ。
- ・訪問利用者・件数を増やす。
利用者数は増加しているが、目標件数まで届いていない。
- ・広報活動
関連機関・ケアマネに比べ、法人内での活用が少ない。活用向上に向け取り組んでいく。
- ・コスト意識を持つ。
薬品の期限切れ・物品の破損、紛失などはなかった。
達成率 80%

●実績

利用者数 訪問看護55名、訪問リハビリテーション75名
(令和元年3月31日現在)
訪問回数 訪問看護2148件、訪問リハビリテーション3734件
(年間延べ回数)

●令和2年度年間目標

- 1.安全で質の高い看護・リハビリを提供する。
- 2.活気ある職場を目指し、働きやすい環境を整える。
- 3.事業所の運営に貢献する。

訪問看護ステーション野の花では、“思いやりの心と技術を研鑽する真摯な姿勢で、住み慣れたお家や地域で安心して過ごせるように健康管理や日常生活の支援に努めます。”という理念のもと活動しています。在宅での介護について、不安・疑問などがありましたらぜひご相談下さい。

関連施設

介護老人保健施設 わらび苑

施設長 医師 池村 紘一郎

介護老人保健施設わらび苑(以下、わらび苑)は「種子島の高齢者に安心を」という理念のもと、利用者の皆様へ安心安全なサービスの提供をできるようにと運営しております。

平成31年度わらび苑では「ベッド稼働率95%の達成」を目標に掲げ達成に向けて「新規利用者獲得」と「職員確保」へ力を入れて取り組んでまいりました。

「新規利用者獲得」については、各事業所ケアマネをはじめ種子島医療センターの地域連携室等と、わらび苑相談部が互いに効率的にベッドを稼働していくことを目的として連携強化したことで、より多くの方に利用していただけるようになりました。

「職員確保」としましては、今まで介護人材の求人としては、多様化するニーズに対して即戦力を必要としており高校へ求人は出していませんでしたが、介護人材の求人として数十年ぶりに市内高校へ求人を募集しました。

苑では準備を進め、学卒職員を医療福祉の世界で育てていくに当たり「新人研修プログラム」を再構築。わらび苑で働き成長していくことを、本人はもちろんの事、その家族や学校関係者など新人職員に関わる人までもが安心できるプログラムを目標に、介護部が中心となって準備を進めてまいりました。

そして令和2年度1名の新人を種子島高校から迎え、現在順調活発に勤務中です。この流れが毎年のように続き育てていくことができれば人材確保において強みとなります。

その他にも様々な取り組みを継続した結果、「ベッド稼働率95.3%」と目標を達成することができました。



令和2年度の目標は、「ベッド利用常時95床以上」(定員97床)です。

目標の達成に向けては、わらび苑をもっと多くの島民の皆様を知っていただき、興味をもっただけでなければなりません。そのためには私たちわらび苑が、苑から飛び出し地域へ出ていくことが大事だと考えています。

そこで今年度は西之表市地域包括支援センターと連携し、地域包括支援センターが立てる年間計画の中で、西之表市の各校区や、保健センターで行われる介護サロン等にて講話をする立場でわらび苑の職員を派遣できることとなりました。わらび苑の実情も交えながら役立つ知識や情報を地域の方に提供していければと考えています(新型コロナウイルスの影響で延期・中止となっているのが残念です)。

わらび苑の職員にとって講話等人前で話をすることや、それに向けて準備をすることは不慣れな部分でした。しかし講話していく中で地域の方々の反応やお話を聞いて学ぶことこそ多くあることも知りました。今では、「楽しみながらしよう!」と、地域の方々との交流の機会ととらえて楽しめるようになると変わってきています。

このように地域のために貢献できる活動へ取り組み、少しでも多くの人にわらび苑の事を知っていただき、わらび苑に行ってみたいと興味を持っていただければ、地域にとって開かれた施設、貢献できる施設へとなっていく。そうなることを目指してこれからも様々なことに取り組んでいきたいと思えます。



関連施設

院内保育所

主任 大木 鈴香

徳永純子、新原祐子、鮫島めぐみ、中村智美

◎保育所紹介

保育所は、病院で働くお母さん方の子どもを預かります。入所時は、お母さんに必死にしがみついて、泣いて抵抗する子もいます。乳児や1歳2歳の小さい子どもが、親と離れ新しい環境へ飛び込むわけですから、不安でいっぱいなのは当然です。しかし、不思議なもので、慣れるのに時間はかかりません！この間まで、お母さんのお腹の中で大切に大切に守られ、誕生してまだわずか。子どもの力は本当にすごいと思います。

あっという間に、歌や言葉を覚えたり、手をつないでお散歩出来たり、日々いろいろな事を吸収しています。今は、コロナの影響で手洗いも上手になりました。基本的な生活習慣が、生活の中で、無理なく自然に身に付いたらいいなと思います。これからも、子どもたちが切磋琢磨しながら、心も体も成長するのが楽しみです。

お母さん方が、安心してお仕事出来るように努めていきます。

